新しい時代に必要な「資質・能力を明確にした」授業づくり

岩見沢市立光陵中学校　学級数 19　(校長　藤田　祐二)

□　実践の概要

本校では、「教えて考えさせる授業」の理念を基盤として、新しい時代に必要な資質・能力を明確にした授業づくりに取り組んでいる。課題の提示後、「教師による簡潔な説明」「生徒同士による理解確認」「活用・応用する深化問題」「振り返り」の４段階で授業を構成し、対話的・協働的な学びを促す授業づくりに取り組んだ。

1　実践の目的

指導の重点を踏まえた全教職員による授業づくりを行うとともに、ＰＤＣＡサイクルによる検証を通して授業の工夫改善に努め、本校が設定する「課題に向き合い、自分で考えて判断し、あらゆる他者と協働して解を生み出す力」という新しい時代に必要な資質・能力を育成することを目的とした。

2　実践内容

(1) 実施計画

「ＰＤＣＡサイクルによる検証」

〔P〕R4 12～R５　３月　年度末反省･新年度計画会議･校内研修による成果と課題から次年度の教育課程を編成

〔D〕R5　４～７月　授業実践、教科部会交流、校内研修による理論研修、校長による指導・助言

〔C〕R5　８月　前期学習アンケート、前期中間反省の集計・分析、後期目標の設定

〔A〕R5　９～12 月　公開研究大会の実施、指導主事による指導・助言、学校評価による成果と課題の分析

(2) 取組の具体

学習過程における指導の重点を設定し、育成を目指す資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた視点で授業改善を行った。

資質・能力育成の手段			学習過程		時間	指導の重点	ICT
主体的	対話的	深い学び					
◎	○		教える	課題	5 分	□ 必然性や必要感のある課題 □ 実生活に関わりのある課題	教 師
○	◎			説明	15 分	□ 教師が「知識・技能」を教える場面 □ 対話的な学習〔生徒の声を引き出す〕	
○	◎		生徒の活動	まとめ	5 分	□ 習得すべき内容をペア・グループで確認 □ 協働的な学習〔自分の言葉で教示・説明〕	生 徒
○	◎	◎		深める	20 分	□ 生徒が「思考・判断・表現」する活動場面 □ 活用・応用する「深化問題」を継続	
◎				振り返り	5 分	□ 粘り強さ、自己調整力、教科横断的な視点による振り返り	デジタル教科書

【１単位時間における指導の重点】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

全国学力・学習状況調査「生徒質問紙調査」では、主体的・対話的で深い学びに関する項目が上昇傾向にあるとともに、知識及び技能を活用する「思考力・判断力・表現力等」を問う問題の正答率が上昇した。

授業との関連	質問紙調査　質問項目	肯定意見(%) 経年変化			R5 全国
		R5 光陵	R4 光陵	R3 光陵	
主体的	授業で課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ	81.3―	83.3↑	80.3	79.2
	授業で学んだことを生かし自分の考えをまとめる活動をした	81.3↑	78.9↑	64.0	69.1
対話的　深い学び	話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできた	82.6―	89.4↑	73.4	79.7
学びに向かう力	学習した内容を見直し次の学習につなげることができた	75.1↑	74.4↑	70.5	69.2
個別最適な学び	授業は自分に合った教え方、教材、学習時間になっている	75.6↑	72.8↑	71.4	74.9
	先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う	93.1↑	87.8	―	87.3
	先生は理解していないところを分かるまで教えてくれる	91.3	―	―	88.9
	授業で ICT 機器をどの程度使用したか：「ほぼ毎日」と回答	87.5―	88.3↑	58.1	28.1

【生徒の変容（全国学力・学習状況調査「生徒質問紙調査」)】

(4) 改善後の取組

教科部会による調査結果の活用、公開研究大会の実施、日常的な校長による指導・助言、学校評価の分析

3　実践のポイント

学校で目指す資質・能力を育成するため、全教職員が共通した学習過程で指導するなどの授業改善を徹底させること

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学力向上の取組

室蘭市立蘭北小学校　学級数 14　(校長　小野　由美子)

□　実践の概要

本校は、北海道教育委員会の「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」の指定を受け、学校全体の授業改善や教員の指導力向上に取り組んでいる。推進教員を中心に全国学力・学習状況調査の分析を踏まえた授業改善策を検討したり、推進教員が他校で実践した授業を題材に全教職員で研修をしたりしている。

1　実践の目的

市内６校を巡回する推進教員３名による、ＴＴ指導や授業づくりに係る校内研修を通して、主体的・対話的で深い学びの視点からの組織的な授業改善を図る。

2　実践内容

(1) 実施計画

「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」における推進教員を活用し、管内や全道の優れた授業実践を収集、活用するとともに、推進教員の授業実践を全教職員で共有し、目指す授業のイメージの共通理解を図ることにより、組織的な授業改善を推進した。

(2) 取組の具体

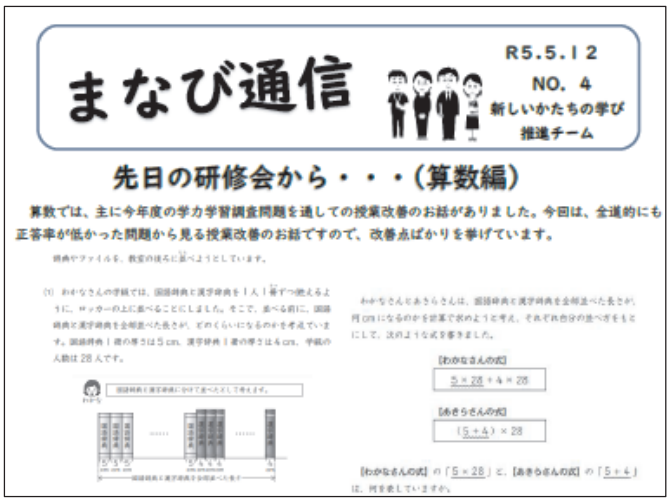
○　全国学力・学習状況調査の分析を踏まえた授業改善策の検討

全国学力・学習状況調査の結果分析と併せて、児童や授業者による授業アンケート、授業者の実感など、様々な面から授業の課題を明らかにし、授業改善策を検討した。

全校で組織的な授業改善を進めるため、推進教員がプレゼンテーションを行う時間を確保するとともに、今年度の全国学力・学習状況調査の教科問題を解く演習を行い、全教職員で育成を目指す資質・能力や授業改善策について共通理解を図った。

○　推進教員の授業実践を活用した校内研修

推進教員が他の配置校で実践した、児童１人１人の考えを引き出し、深める算数科の授業を動画で撮影し、全教職員で視聴するとともに、実践の成果と課題や児童の学習状況を踏まえた一層の授業改善について協議を行った。


まなび通信

R5.5.12
NO. 4
新しいかたちの学び推進チーム

先日の研修会から・・・(算数編)

算数では、主に今年度の学力学習調査問題を通しての授業改善のお話がありました。今回は、全道的にも正答率が低かった問題から見る授業改善のお話ですので、改善点ばかりを挙げています。

【わかなさんの式】
5×28＋4×28

【あきらさんの式】
(5＋4)×28

【わかなさんの式】の「5×28」と、【あきらさんの式】の「5＋4」は、何を表していますか。

【授業改善のポイントをまとめた、推進教員が作成した通信の一部】

協議後、１人１人が自身の学級で行う授業の単元計画について改善し交流するなど、すぐに授業改善につながる研修となった。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

児童アンケートにおいて「授業において、友だちとお互いに意見を出し合っている」と回答した児童の割合が 81%（５月）から 87%（11 月）に向上したことから、全校で対話的な学びが推進されてきたことが分かった。

また、授業改善を推進するためには、単元全体を見通すことが重要であることを全教職員で共有することができたため、単元計画の改善も推進することができた。

(4) 改善後の取組

一層の授業改善を図るため、学年間の系統性や単元と単元のつながりを意識した授業づくりや、目的を明確にして効果的にＩＣＴを活用した授業づくりを推進している。

3　実践のポイント

・６校を巡回する指定事業の利点を生かし、推進教員を授業改善の推進役として位置付け、発信の場を設定したこと

・目指す授業の具体を動画の視聴や改善策の検討、通信による情報共有、授業参観など様々な方法で共有し、全校で組織的に授業改善を推進したこと

自身の学びの過程や変容を自覚できる学習活動の工夫

池田町立池田中学校　学級数６　(校長　中村　俊緒)

□　実践の概要

本校は、授業改善の取組を活性化していくための視点の１つとして、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、生徒が、何を、どのように学び、何ができるようになったのか、自身の学びの過程や変容を自覚できる振り返り場面を位置付けた授業改善を推進している。

1　実践の目的

学習指導要領で示された資質・能力の三つの柱の育成を図る授業改善を通し、目標に向かう過程を生徒自身が認識することにより、多様な人々と協働しながら問題を発見し、解決する力が育まれると考え、単元の学びを通して身に付けた資質・能力を生徒自身が実感できる「学びガイド」を活用した振り返り活動の内容や方法についての研究を行う。

2　実践内容

(1) 実施計画

①　校内研修と連動した、学習の振り返りの充実と生徒の姿の共有

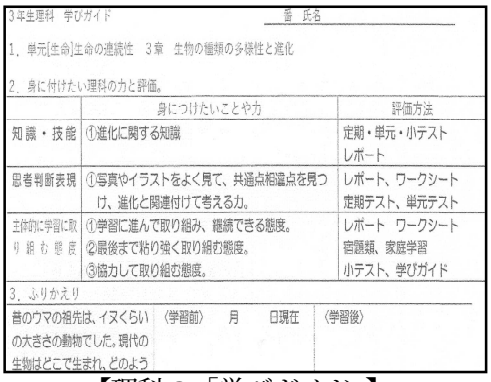
②　学習課題を意識した学習の振り返りの実現

(2) 取組の具体

①　校内研修と連動した、学習の振り返りの充実と生徒の姿の共有

学習後、生徒が自己の学びについて「分かったこと」「できたこと」を明確にすることができるよう、「学びガイド」に学習の振り返りを記入するようにしている。また、生徒が記入した「学びガイド」を資料として生徒の学習状況について共有する研修を行っている。

研修後には、資質・能力の三つの柱に沿って振り返りができている生徒の「学びガイド」を集めて掲示し、生徒がいつでも見て参考にできるようにした。



3年生理科　学びガイド　　番　氏名

1、単元[生命]生命の連続性　3章　生物の種類の多様性と進化

2、身に付けたい理科の力と評価。

	身につけたいことや力	評価方法
知識・技能	①進化に関する知識	定期・単元・小テスト レポート
思考判断表現	①写真やイラストをよく見て、共通点相違点を見つけ、進化と関連付けて考える力。	レポート、ワークシート 定期テスト、単元テスト
主体的に学習に取り組む態度	①学習に進んで取り組み、継続できる態度。 ②最後まで粘り強く取り組む態度。 ③協力して取り組む態度。	レポート　ワークシート 宿題類、家庭学習 小テスト、学びガイド

3、ふりかえり

昔のウマの祖先は、イヌくらいの大きさの動物でした。現代の生物はどこで生まれ、どのよう	〈学習前〉　月　日現在	〈学習後〉

【理科の「学びガイド」】

②　学習課題を意識した学習の振り返りの実現

日常的に「学びガイド」を活用することにより、生徒は何について振り返るかという視点を明確にもつことができるようになり、本時の学習課題を意識した振り返りを書くことができるようになった。今までは「分かったこと」「できたこと」についての記述が多かったが、本実践によって、学習に取り組んでいる最中の自分をメタ認知し、「他の班との結果を比較したことで、実験を見直したり再実験したりすることができた。」という科学的に解決する価値に触れる内容や、「今日の学習から、自分の家の○○について調べてみたい。」という「学びに向かう力・人間性等」に関する内容が見られた。

【授業で振り返りを記入している様子】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

各教科等の各単元が終わる毎に「学びガイド」を回収し、毎時間の生徒の記入内容や自己評価の状況を踏まえ、次のような改善を図った。

１年目は、毎時間の学習内容の理解度を記号で自己評価できるようにし、各単元のまとめの際に文章で記入していたが、授業の中で生徒が、どの程度、学習内容を理解しているかについて評価するのは難しかったことから、２年目は、毎時間の振り返りにおいて生徒が分かったことについて記入するようにした。しかし、個々の生徒の理解が深まっておらず、学習課題に正対した振り返りになっていないものがあったことから、３年目は、単位時間の授業の内容に応じた振り返りの視点を設定したり、好事例の紹介や授業開きの際に、書いたり図にまとめたりする練習を重ねることについて説明したりし、生徒が視点を明らかにして取り組むことをできるようにした。

これらの取組を通して、何が分かり、何ができるようになったのか生徒が自分の言葉で記述するようになったりするなど、生徒の変容が見られた。

(4) 改善後の取組

今後は、教科等横断的な視点に立ち、身に付けた資質・能力を表出することができる場面を意図的に設定し、一層の資質・能力の定着に向け、「見通しと振り返り」の充実を図るとともに、指導と評価の一体化を充実させる必要がある。

3　実践のポイント

生徒に振り返りの視点を意識させることにより、生徒が学習状況を捉え、見通しをもち学習する姿が見られるようになるなど、「学びガイド」を活用し、「何ができるようになったのか」「何が分かったのか」を自覚し、既習事項を次時の学習に生かそうとする力を育成したこと